

大学のチームスポーツにおける集団効力感と集団凝集性

若狭 美那 (大阪教育大学)

1. 目的

集団効力感とは、1980年代に提唱された概念であり、スポーツ心理学領域において、ある特定の状況において「我々は集団として課題に取り組むことができる」といった成員間で共有される集団的な有能感とされている。一方、スポーツ集団においてチームワークを発揮する上で非常に重要で、チームワークを理解するうえでも必要不可欠な概念として、集団凝集性がある。これは集団のメンバー間が引き合う魅力を維持する社会的な力のことを指す。

本研究では大学生の集団効力感と集団凝集性を調査し、どのような要因によってこれらに違いが生まれるのかを明らかにすることを目的とする。集団効力感と集団凝集性が、試合中の行動と関連しているのかについても明らかにする。また、集団としての自信を持つことができる出来事を明らかにして、チームスポーツのチーム力向上のための一助とする。

2. 方法

- 1) 対象者：チームスポーツ経験者の大学生 138 名
- 2) 調査方法：Google Forms を用いた web アンケートによって集計を行った。アンケートは Short et al. (2005) のスポーツ集会的効力感尺度と Carron et al. (1985) の集団環境質問票を参照し作成した。
- 3) 調査期間：2023 年 11 月 12 日～11 月 28 日
- 4) 分析方法：全体の集団効力感と集団凝集性に関しては、因子ごとに平均値と標準偏差を求めた。集団効力感と集団凝集性の男女の比較に関しては、t 検定を行った。学年、競技レベル、チーム内での立場に関しては、分散分析を行った。有意な差が認められた場合には Bonferroni 法による多重比較を行った。試合中の行動の合計得点を集団効力感の合計得点の高い群(上位 20%)と低い群(下位 20%)に分けて行った比較に関しては、t 検定を行った。統計ソフトは IBM SPSS statistics 24 を使用し、有意水準は 5%未満とした。

3. 結果と考察

研究対象者の全体的な傾向としては、どの因子の合計得点の平均値も中点を上回る値を示した。集団効力感と集団凝集性に違いが生まれる要因については、性別、競技レベル、チーム内での立場によって違いが生まれることが明らかとなった。性別については女子よりも男子の方が高い値を示した。競技レ

ベルについては市民大会出場経験ありが最も低い値を示した。集団効力感とは有能感であるため、パフォーマンスのレベルによって左右されるのだろう。チーム内での立場については集団効力感と集団凝集性のどちらもレギュラーメンバーが高い値を示した。その理由としては、チームの主軸となって活動していることが考えられる。集団効力感と集団凝集性の合計得点が高い群と低い群に分け、試合中の行動を比較したところ、高い群の試合中の行動の合計得点が高い値を示した。「どの場面で集団としての自信を持つことができましたか。」という質問に対しては 405 件の回答が集まり、「連携プレーが成功した(114 件)」と最も多かった。

4. 結論

どの要因によって集団効力感と集団凝集性に違いが生まれるのかを明らかにするため、性別、学年、競技レベル、チーム内での立場の 4 つの観点から比較した結果、学年ごとに比較した集団凝集性以外の全ての比較で有意差が認められた。このことから、個人の実力や立場によってチームとしての自信の持ち方は異なるといえる。集団効力感と集団凝集性は、試合中の行動と強く関連していた。集団として高いパフォーマンスを発揮しなければ勝つことができないチームスポーツにおいては、集団のまとまりの強さとパフォーマンス発揮に関連があるのだろう。集団効力感が上がる場面については、連携プレーの成功などの結果を出すまでの過程に注目している回答や人間関係に注目している回答が多かった。つまり、チーム全員が一体となって行動できているかが集団効力感に影響を及ぼす要因になるといえる。

<参考文献>

- 1) Carron, A. V., Widmeyer, W. N., and Brawley, L. R. (1985) The development of an instrument to assess cohesion in sport teams: The group environment questionnaire. *Int. J. Sport Psychol*, 7: 244-266.
- 2) Short, S. E., Sullivan, P., and Feltz, D. L. (2005) Development and preliminary validation of the collective efficacy questionnaire for sports. *Meas. Phys. Educ. Exerc. Sci.*, 9:181-202.